

## 第1回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日 時 令和2年9月2日（水）午後3時00分から午後4時45分まで
2. 場 所 角田市市民センター201会議室
3. 出席者 (1) 角田市長期総合計画審議会委員26名（出席者名簿のとおり）  
(2) 事務局 市長 黒須 貫  
総務部長 牛澤 順  
企画財政課 課長 玉渕 和紀  
企画財政課 課長補佐 大槻 康弘  
企画財政課 企画調整係 係長 齋藤 謙  
企画財政課 企画調整係 主査 安達 宗平

### 4. 内容（概要）

#### 1 開会

#### 2 委嘱状の交付

#### 3 市長あいさつ

審議会の開催にあたりまして、一言挨拶を申し上げます。

この度は、角田市長期総合計画審議会の委員をお引き受けいただき、また、本日は大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。加えまして、皆様方におかれましては常日頃より、市政運営にご理解とご尽力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本市におきましては、現行の第5次長期総合計画が平成23年度から令和3年度までの十一年間をもって、その計画期間が満了することとなります。第5次長期総合計画では、「人と地域が輝く田園交流都市かくた」を将来の都市像としまして、「定住人口3万人の確保」、「交流人口100万人への挑戦」、「戦略的産業振興」を重点プロジェクトに据え、山積する課題解決に向けて、積極的な市政運営を推進して参りました。

加えて、人口減少や少子高齢化という課題に取り組むため、平成27年度に「角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、第5次長期総合計画と一体的な取り組みを進めて参りました。この地方創生総合戦略は、第5次長期総合計画と同じく令和3年度で終期を迎えます。角田市といたしましては、人口減少や少子高齢化など直面している課題への対応策などについて、引き続き果敢にチャレンジしていく必要があります。このため、これらの計画を統合した上で新たな計画を策定することといたしました。

第6次長期総合計画の策定にあたっては、これまでの計画における反省点を踏まえつ

つ、市民の皆様からのご意見を拝聴しながら、市民の皆様と共に創る総合計画を目指して参りたいと考えております。

委員の皆様には大変お忙しい中、恐縮ではありますが、幅広い御経験や見地から、角田市の将来のあるべき姿につながる忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症対策で何かとご面倒をおかけいたしますが、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

#### 4 審議会委員の自己紹介及び事務局職員の紹介

#### 5 経過報告

(1) 角田市長期総合計画条例等について【資料1】

(2) 角田市第6次長期総合計画策定方針について【資料2】

(3) 角田市第6次長期総合計画策定経過について【資料3】

(1)～(3)について、事務局(齋藤企画調整係長)より、【資料1】～【資料3】に基づき、説明を行った。このことに係る質疑等は以下のとおり。

[堀米委員]

(【資料3】中、RESAS職員研修会に関して)

RESAS(地域経済分析システム)を活用した取組について、今後重要なポイントとなる取組であると考えているが、今後どのような方向で進めていくのか。

また、市役所の中堅職員が自分たちで計画を作っていくことが大事なことであると考えているが、今後の考えを聞かせてほしい。

[玉淵企画財政課長]

令和元年度に予定していたRESAS活用に係る職員研修会については、令和元年東日本台風と新型コロナウイルス感染症の影響により中止となってしまったが、本年10月に改めて開催する予定としている。その上で、採用5～10年程度の若手職員を中心として、RESASを活用して課題等を抽出し、今後角田市に必要な施策を考えていくといった取組を考えている。また、本審議会においてその内容を発表し、ご意見をいただくことでさらに充実させていくといったことも考えている。(【資料7】RESASを活用した施策立案に係る資料参照。)

[毛利委員]

(【資料3】中、角田中学校財政教育プログラム(ワークショップ)に関して)

角田中学校で財政教育プログラムを実施した話を聞いて勇気が湧いた。

[菅原委員]

(【資料2】中、現行計画の検証・計画期間等に関して)

第5次長期総合計画の計画期間はまだ終わっていないが、その実績点検による検証

結果等は第6次長期総合計画に反映されるということでしょうか。また、市内部で行った実績点検の結果について、審議する場は設けられるか。

第6次長期総合計画の計画期間は10年間とあるが、計画期間については条例で規定しないのか。

[玉渕企画財政課長]

第5次長期総合計画の検証については、実績点検として、現在、施策を実施してきた各課において点検作業を行い、それをまとめているところである。次回の会議になると思われるが、この実績点検の作業が終了した段階で、審議会の皆様にご報告をさせていただき、ご意見を頂戴したいと考えている。

総合計画の計画期間については、条例上は明記していない。一般的に地方公共団体の総合計画の期間は10年前後となっていることが多いが、策定の際の状況によって変わる可能性もある。角田市としては、これまでの経験も踏まえ、今回策定する第6次長期総合計画については、基本構想は10年、基本計画は5年ごとに見直す考えである。

## 6 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条において、会長が議長を務めることと規定されているため、会長が選任されるまでの間は、黒須市長が仮議長を務め、会長選任後、会長が議長を務めた。

### (1) 会長の選任について

角田市長期総合計画審議会条例第4条の規定に基づき、委員の互選により柳井委員が会長に選任された。

### (2) 諮問【資料4】

黒須市長より審議会に対し、第6次長期総合計画基本構想について諮問し、諮問書【資料4】は諮問書の写し）が柳井会長に手渡された。

### (3) 副会長の選任について

角田市長期総合計画審議会条例第4条の規定に基づき、委員の互選により安藤委員が副会長に選任された。

### (4) 会議の公開について【資料5】

【資料5】傍聴要領（案）を基に、事務局（玉渕企画財政課長）より説明を行った。このことに係る質疑等は以下のとおり。

[戸田委員]

傍聴の受付について、定員になり次第終了とあるが、定員はどの程度か。

〔玉渕企画財政課長〕

新型コロナウイルス感染症対策を考慮し、ソーシャルディスタンスを確保した上で、会議を開催する会場の広さに応じて設定する。

〔菅原委員〕

「審議会の委員の3分の2以上の多数で決定したときは、非公開の会議を開くことができる」とあるが、角田市長期総合計画審議会条例第5条第2項の規定により委員の過半数の出席で会議が成立するため、会議当日の採決は難しいことも想定されるが、会議内容に応じて事前に採決をとるということか。

〔玉渕企画財政課長〕

会議の公正かつ円滑な運営に支障が生じる可能性があるとは判断した場合には、事前に何らかの方法で、説明した上で、採決をとる考えである。

質疑応答後、採決の結果、会議の公開について、【資料5】傍聴要領に基づき行うことが、賛成多数で決定した。

(5) 会議報告書の公表について【資料6】

【資料6】会議報告書の公表要領(案)を基に、事務局(玉渕企画財政課長)より説明を行った。このことに係る質疑等は以下のとおり。

〔菅原委員〕

傍聴要領に基づき、非公開の会議を開催した場合の報告書の取扱いはどうなるのか。

〔玉渕企画財政課長〕

非公開の会議を開催した場合にも報告書は作成し、委員の方々へのご報告はさせていただくが、ホームページ上での公表はしないものと考えている。

質疑応答後、採決の結果、会議報告書の公表について、【資料6】会議報告書の公表要領に基づき行うことが、賛成多数で決定した。

(6) 角田市第6次長期総合計画の策定について【資料7】

【資料7】を基に、事務局(玉渕企画財政課長)より説明を行った。このことに係る質疑等は以下のとおり。

〔齋藤(勤)委員〕

(【資料7】策定スケジュール中、財政計画等に関して)

財政状況が厳しい中で、審議した内容が財政難により実施できないということも考えられるため、現在の財政状況についての説明があった方が議論しやすいと考えるが、第2回審議会において説明があると考えてよいか。

〔玉渕企画財政課長〕

角田市の現在の財政状況については、第2回審議会においてご説明させていただく。  
また、財政の裏付けのない総合計画はないものと考えているため、令和3年度中に第6次長期総合計画期間の財政計画を作成予定である。

質疑応答後、採決の結果、角田市第6次長期総合計画の策定について、【資料7】に基づく事務局の説明のとおり進めていくことが、賛成多数で決定した。

(7) その他

〔齋藤企画調整係長〕

「議事(5)会議報告書の公表について」の決定以前の発言についても、公表してよいか採決いただきたい。

採決の結果、「議事(5)会議報告書の公表について」の決定以前の発言についても公表することが、賛成多数で決定した。

〔堀米委員〕

総合計画は行政運営上、重要な計画となるが、この総合計画をどのように活用していくのかということを考えていただきたい。市民に対してどの程度、普及・アピールしていくのか。これまでは、行政上の計画として役所内にしまわれていたように思う。今回策定する第6次長期総合計画では、市民の立場に立った、分かりやすい計画書づくりが必要であると感じる。私たちも委員として参加していても、専門的な内容も多く、意見ができない場面も多々ある。今回の計画に関しては、市民の言葉で、また市役所の職員も自分たちの言葉で、市民に分かりやすい内容の計画を作っていくことを心掛けてはどうか。コンサルタント業者に頼りすぎることなく、自分たちで作ることが基本であるとする。そういった考え方の基に進めていただきたい。

〔柳井会長〕

堀米委員のおっしゃるとおりである。

自分の頭で考える「地頭力」というのが重要であると考えている。今回事務局から説明のあったRESASを活用した取組は、まさに職員の「地頭力」を上げていくきっかけの一つになって欲しいと考える。

また、KPI(重要業績評価指標)について、定性的な設問と定量的な設問に分けて分析を行っていくことが大事だと思っている。KPIの議論を深めていくなかで市民も職員も意識と実践の方法が変わってくるのではないだろうか。

市民に訴えていくツールとして、SDGsの17のゴールのアイコンを各事業に当てはめていくと、その事業がどのゴールに該当するのかが明確になるといったことが

ある。これと同じように、庁内各部課で独自のアイコンを作成し、計画等に貼り込むことにより、市民も職員も興味や関係のあるアイコンを基に、実施計画間の関係性が見えてくるとともに、相互に関心や話し合いも出てくるだろう。そのような手法もある。

[堀米委員]

この審議会が虚しいものとならないよう、今後進めていただきたい。

## 7 閉会